

先端の創薬を通じて
人々の健康と明日の医療に貢献する



CONTENTS

株主の皆様へ	1
営業の概況	2
連結財務諸表	4
業績の概況(連結)	6
トピックス	7
主要製品	8
株式の概況	9
会社の概要・役員	10

株主の皆様へ

株主の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、第87期(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)の事業概況をご報告するにあたり、ご挨拶申し上げます。

国内医薬品市場は、少子高齢化を背景とした医療制度改革が推進されるなか、昨年4月に実施された業界平均6.7%の薬価基準引き下げの影響や競争の激化により、依然として厳しい環境が続いております。当社はこのような情勢に対処するために医薬品に経営資源を集中し、強い競争力のある新薬開発型企業を目指しております。「先端の創薬を通じて、人々の健康と明日の医療に貢献する」ことを経営理念とし、法令遵守、倫理的な経営のもと、「社会に貢献し信頼される会社」として発展していきたいと考えております。

当社は、合併のシナジー効果を最大限に引き出すように、さまざまな改革を進めてまいりました。今後もその手を緩めずに効果の最大化を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年6月

代表取締役社長

山口 隆



営業の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、消費に弱さが見られるものの、企業部門の好調さが、雇用・所得環境の改善を通じて家計部門へ波及し、民間需要中心の緩やかな回復基調で推移いたしました。

医薬品業界におきましては、昨年4月に業界平均6.7%の薬価基準の引き下げが実施されるなど、医療費・薬剤費抑制策の継続基調は変わらず、市場環境は引き続き厳しい状況のもとに推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、医薬品への資源の集中、武田薬品工業株式会社への販売の一本化、医薬営業体制の整備ならびに適正な医薬情報活動に取り組んでまいりました。その結果、平成17年10月の合併効果もあり、当連結会計年度の売上高は303億1百万円（前連結会計年度比26.6%増）となりました。利益面では人件費をはじめ販売費等の節減に努めた結果、経常利益は20億7千5百万円（前連結会計年度比159.7%増）、当期純利益は9億6千9百万円（前連結会計年度比105.6%増）となりました。

各分野における売上状況は、医薬品分野では消化性潰瘍・胃炎治療剤「アルタット」、前立腺肥大症・癌治療剤「プロスタール」、甲状腺ホルモン剤「チラーヂン」、高脂血症治療剤「リビディル」および「ラミアン」、尿失禁・頻尿治療剤「ミクトノーム」、前立腺肥大症の排尿障害改善剤「リストリーム」、経口避妊剤「アンジュ」等の産婦人科製品、昨年7月に上市いたしましたマクロライド系抗生物質製剤「マインベース」、定量噴霧式鼻過敏症治療剤「ミリカレット」ならびにコ・プロモーション製品を中心に販

売努力をいたしました結果、売上高は287億4千万円（前連結会計年度比31.6%増）となりました。

動物用医薬品分野では主力製品の繁殖器管用製剤「セロトロピン」、「レジブロン」、消化器用製剤「エンドコール」、犬糸状虫症予防剤「ハートメクチン」を中心に販売努力をいたしました結果、売上高は10億2千2百万円（前連結会計年度比6.4%増）となりました。

そのほか、原料薬品、食品、医療機器、検査等の各分野におきましては、それぞれ市況の厳しさが続くなかで鋭意販売努力をいたしましたが、売上高は5億3千8百万円（前連結会計年度比52.0%減）となりました。

生産面におきましては、一層の生産の効率化、品質の向上とともに計画に則した生産を順調に達成することができました。

研究開発面におきましては、独創性の高い医薬品の開発に注力するとともに、導出・導入にも積極的に取り組んでおります。次期新製品のグレラン・ビット（解熱鎮痛剤、一般用医薬品）は、平成19年度の上市を目指します。更年期障害治療剤RPR106522は本年2月に申請し、平成20年度の上市を目指します。BNP7787（抗がん剤補助療法剤）は、フェーズ試験の早期終了を目指しております。GPD-1116（慢性閉塞性肺疾患治療剤）は、昨年より、欧州においてフェーズ試験を実施しております。またTZT-1027（抗がん剤、フェーズ ）は、本年3月に株式会社ヤクルト本社と導出に関する基本合意書を締結し、同社が全世界において独占的に開発、販売する権利を供与しました。さらに本年

営業の概況

3月、日本ケミカルリサーチ株式会社と当社が開発中の完全無血清遺伝子組み換え卵胞刺激ホルモン（不妊症治療剤）の導入契約を締結し、当社が全世界において開発、製造販売する権利を得ました。

当連結会計年度における設備投資額は2億6千4百万円で、その主なものは研究設備ならびに生産設備等であります。

当連結会計年度においては、社債の発行、増資等による資金調達は行っておりません。

当社は、医薬品への集中をはかるため、平成18年10月、診断薬事業を、協和メデックス株式会社および株式会社三菱化学ヤマトロンに譲渡いたしました。

今後の医薬品業界は、医療の標準化・包括化、医療費・薬剤費抑制策の影響を受け、引き続き厳しい経営環境が予測されます。

当社は合併のシナジー効果を最大限に引き出すように、人事・制度・組織面での改革を進めてまいりました。今後も改革を緩めず、効果の最大化を図ってまいります。また、子会社の再編を図り、資源の有効活用を進めてまいります。

研究開発面では、合併による新薬開発品の増加に伴い、平成19年度には新たに1品目が臨床試験に入る計画となっておりますが、その確実な推進を目指します。また、導出入活動にも注力してまいります。

販売面では、医薬品分野につきましては、質の高い医薬

情報活動と新上市品、合併のシナジー効果、販売提携により売上高の増加を目指します。また動物用医薬品分野につきましては、当社の得意とする繁殖用薬を中心に売上高の増加を目指します。

費用面では、パイプラインの充実により研究開発投資の増加が予想されますが、効率的な使用や導出等により抑制し、低コスト経営、体質強化に努めてまいります。また、株主の皆様はもとより、広く社会とのコミュニケーションを図り、企業情報を積極的かつ公正に開示するようIR活動を推進してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	期 別	
	前連結会計年度 平成18年3月31日現在	当連結会計年度 平成19年3月31日現在
資産の部	52,090	51,982
流動資産	25,640	27,766
現金及び預金	8,052	8,810
受取手形及び売掛金	10,885	13,182
その他	6,702	5,772
固定資産	26,449	24,216
有形固定資産	12,290	11,534
無形固定資産	226	175
投資その他の資産	13,932	12,506
投資有価証券	9,232	7,169
その他	4,700	5,337
資産合計	52,090	51,982
負債の部	19,960	20,309
流動負債	10,691	11,823
固定負債	9,269	8,486
純資産の部	32,129	31,673
株主資本	30,328	30,598
資本金	1,197	1,197
資本剰余金	845	846
利益剰余金	30,219	30,849
自己株式	1,934	2,294
評価・換算差額等	1,801	1,074
その他有価証券評価差額金	1,801	1,074
負債純資産合計	52,090	51,982

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	期 別	
	前連結会計年度 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで	当連結会計年度 平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
売上高	23,927	30,301
売上原価	7,380	10,218
返品調整引当金繰入額	0	2
売上総利益	16,547	20,079
販売費及び一般管理費	15,962	18,060
営業利益	584	2,019
営業外収益	440	371
営業外費用	226	315
経常利益	799	2,075
特別利益	2,043	685
特別損失	1,750	806
税金等調整前当期純利益	1,091	1,953
法人税、住民税及び事業税	617	1,399
法人税等調整額	2	415
当期純利益	471	969

連結財務諸表

連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

当連結会計年度 平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで	株主資本					評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
平成18年3月31日 残高	1,197	845	30,219	1,934	30,328	1,801	1,801	32,129
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当			340		340			340
当期純利益			969		969			969
自己株式の取得				363	363			363
自己株式の処分		0		2	3			3
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						726	726	726
連結会計年度中の変動額合計	-	0	629	360	269	726	726	456
平成19年3月31日 残高	1,197	846	30,849	2,294	30,598	1,074	1,074	31,673

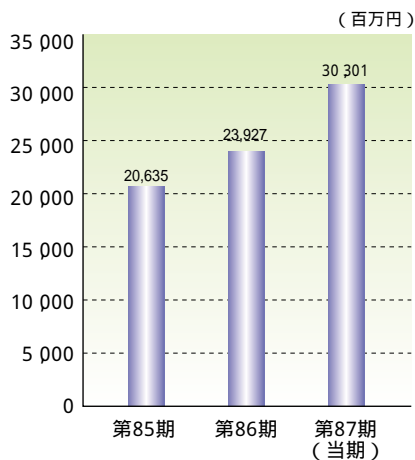
連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

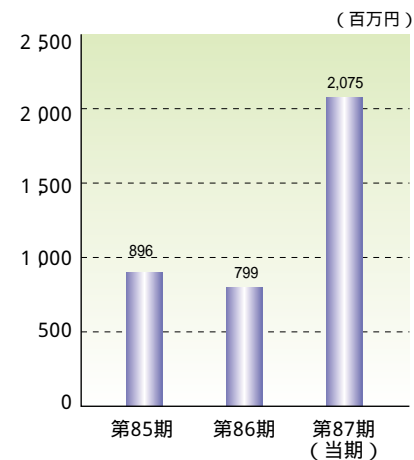
科 目	期 別	前連結会計年度 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで	当連結会計年度 平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで
	営業活動によるキャッシュ・フロー		458
投資活動によるキャッシュ・フロー		2,233	1,294
財務活動によるキャッシュ・フロー		4,574	1,658
現金及び現金同等物に係る換算差額		0	0
現金及び現金同等物の増減額		2,799	998
現金及び現金同等物の期首残高		10,049	7,812
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額		561	-
現金及び現金同等物の期末残高		7,812	8,810

業績の概況(連結)

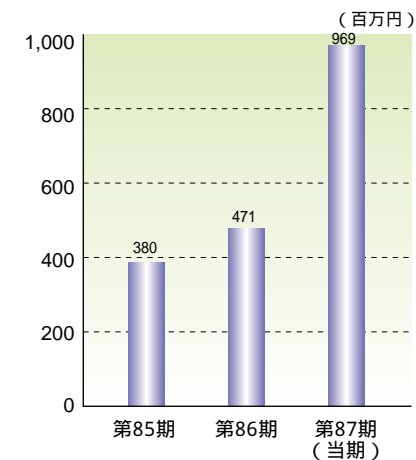
売上高



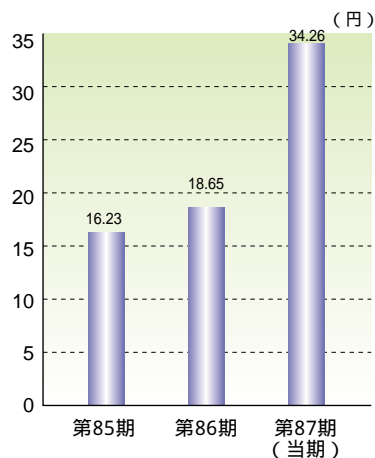
経常利益



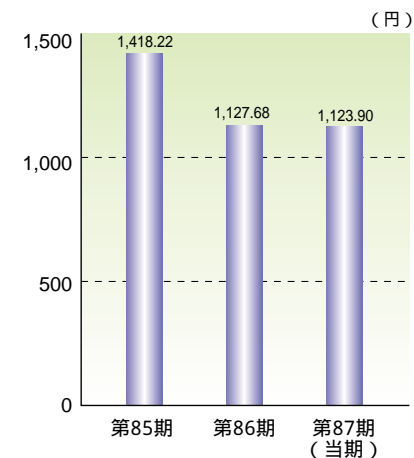
当期純利益



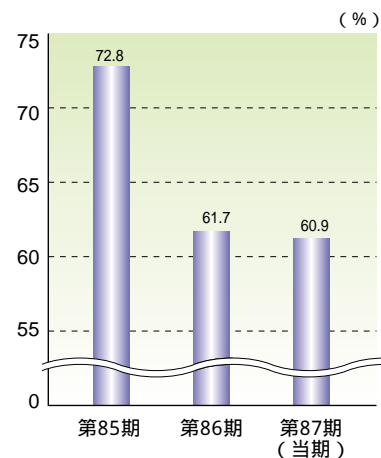
1株あたり当期純利益



1株あたり純資産額



自己資本比率



(注) 当社は、第86期に、平成17年10月1日付でグレラン製薬株式会社と合併しました。

2007年3月期(平成18年度)決算説明会を実施

平成19年5月22日午前10時より、兜町日興ビルにおいて、山口社長、山口専務、金澤専務、大竹取締役出席のもと、平成18年度決算説明会を行いました。本説明会には、証券会社他のアナリスト17名、一般紙、業界紙記者10名合わせて27名の出席がありました。

山口社長が決算説明および経営ビジョンについて約40分間熱く説明し、その後、約15分程度、出席者からの質問に対し、山口社長以下担当役員が丁寧に回答して11時に終了しました。

当社は、合併以後、IR活動の一環として、全国版一般紙に社名広告を実施してまいりました。この度のアナリスト向け決算説明会は、当社初の試みでしたが、IR活動を推進する方針のもと、今後も積極的に取り組んでまいります。

なお本説明会に使用した資料は、当社ホームページ「株主・投資家情報」の「決算短信」のページに掲載しておりますので、詳細はそちらをご覧ください。

バイオ医薬品の開発に参入

当社は平成19年3月、日本ケミカルリサーチ株式会社(本社 兵庫県芦屋市)が独自に創製した、完全無血清培地を使用して製造するという特徴ある「遺伝子組換え卵胞刺激ホルモン(不妊症治療剤)」:JR-041について、導入契約を締結しました。

本製品の特長は、完全無血清培地、即ち血清を全く含まない培地を用いた方法により製造されているため、感染リスクがないことです。当社はより高品質な製剤として、日本オリジナルの遺伝子組換えによる不妊症治療剤を患者さんに提供していくこととなります。

今後、JR-041の開発を機に、日本ケミカルリサーチとの良好な協力体制を深め、患者さんにとって欠くことのできない、バイオ医薬品を提供していきたいと考えています。

更に、JR-041の開発を世界的に進められることから、当社にとって極めて魅力的な事業であると考えています。



説明する山口社長



会場の雰囲気



契約を締結した山口社長と
日本ケミカルリサーチ株式会社芦田社長

主要製品

医療用医薬品

内科(消化器・循環器・甲状腺)、泌尿器科、耳鼻咽喉科、産婦人科領域に品揃えを展開しています。



消化性潰瘍・胃炎治療剤
アルタットカプセル37.5・75



前立腺肥大症・癌治療剤
プロスタール錠25
徐放性前立腺肥大症治療剤
プロスタールL錠



定量噴霧式鼻過敏症治療剤
ミリカレット点鼻用50μg



甲状腺機能低下症治療剤
チラーゼンS錠25・50・100



高脂血症治療剤
リビディルカプセル67・100



経口避妊剤
アンジュ21・28

一般用医薬品



鎮痛・解熱剤
グレンエース錠



筋緊張改善剤
ドキシン錠

健康食品



健康食品
デファット



栄養補助食品
ロイヤルゼリー&
プロボリス

動物用医薬品



注射用血清性性腺刺激ホルモン
動物用セトロロビン



犬前立腺肥大症治療剤
ウロエース錠

株式の概況

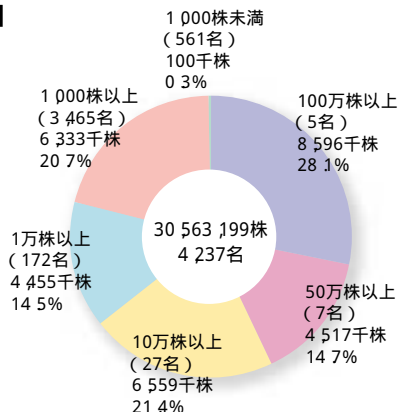
(平成19年3月31日現在)

株式の状況

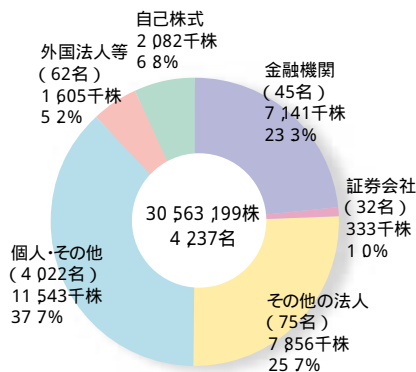
発行済株式の総数	30,563,199株
株主数	4,237名

株式の分布

【所有株数別】



【所有者別】



大株主の状況(上位10位)

株主名	所有株数(千株)	持株比率(%)
武田薬品工業株式会社	2,204	7.2
長瀬産業株式会社	1,850	6.0
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,398	4.5
山口隆	1,060	3.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	858	2.8
野口尚志	832	2.7
あすか製薬従業員持株会	737	2.4
日本生命保険相互会社	579	1.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	510	1.6
トーア再保険株式会社	500	1.6
ビービーエイチポストンハートランドパリューフアンドインク	500	1.6

- (注) 1.千株未満は切り捨てて表示しております。
 2.持株比率は小数第2位を切り捨てて表示しております。
 3.当社は自己株式2,082千株を保有しております。

会社の概要

(平成19年3月31日現在)

社名	あすか製薬株式会社
設立	昭和4年6月28日 (創立 大正9年6月16日)
資本金	11億9,790万円
主な事業内容	医薬品、動物用医薬品、医薬部外品、 食品および医療機器等の製造・販売ならびに 輸出入
主な事業所	
本社	東京都港区芝浦二丁目5番1号
事業所	川崎事業所(神奈川県川崎市) 西東京事業所(東京都羽村市)
工場	いわき工場(福島県いわき市) 西東京工場(東京都羽村市)
支店	札幌支店、北東北支店、南東北支店、東京 支店、千葉支店、埼玉支店、横浜支店、北 関東支店、甲信越支店、名古屋支店、京都 支店、大阪支店、神戸支店、中国支店、四 国支店、福岡支店、南九州支店
従業員数	1,057名 (子会社への出向者20名を含めておりません)

役員

(平成19年7月1日現在)

役員	代表取締役社長	山口 隆
	代表取締役専務取締役	山口 雅夫
	専務取締役	金澤 一
	常務取締役	大竹 充
	取締役	奥村 一
	取締役 生産本部長	萬矢 裕俊
	取締役 研究開発本部長	堀内 敏
	常勤監査役	清原 英之助
	常勤監査役	鈴木 光男
	監査役	飛田 秀成
	監査役	武田 裕二
執行役員	上席執行役員 特命事項担当	船津 讓一
	上席執行役員 特命事項担当	寺西 孝郎
	執行役員 医薬事業本部長	鈴木 肇
	執行役員 経営企画室長兼人材開発センター担当	杉本 隆雄
	執行役員 総務人事部・法務広報部担当	横山 義廣
	執行役員 監査室・信頼性保証本部担当	才田 修
	執行役員 アニマルヘルス担当	應矢 誠司
	執行役員 西東京事業所長兼創薬研究センター長兼合成研究部長	青塚 知士
	執行役員 医薬営業本部長	内藤 朗
	執行役員 いわき工場長	長谷川 憲一

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 TEL .0120 232 711(通話料無料)
同 取 次 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店
上 場 証 券 取 引 所	東京証券取引所
公 告 掲 載 紙	日本経済新聞

お知らせ

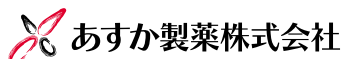
株式に関するお手続き用紙のご請求について

株式に関するお手続き用紙(届出住所・印鑑・姓名等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書、名義書換請求書等)のご請求につきましては、上記株主名簿管理人にてお電話ならびにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。

0120-244-479(三菱UFJ信託銀行証券代行部)
0120-684-479(三菱UFJ信託銀行大阪証券代行部) } 通話料無料

インターネットアドレス <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。



本 社 〒108-8532 東京都港区芝浦二丁目5番1号
TEL 03(5484)8361(代) FAX 03(5484)8351
<http://www.aska-pharma.co.jp/>



古紙配合率100%を使用しています。



本誌は大豆油インキで印刷しています。